

家庭菜園相談室

今月の
テーマ

甘酢漬けはカレーライスの名脇役!ラッキョウ

ラッキョウの使い道は、味噌漬け・粕漬け・かき揚げなど様々で、血液をサラサラにする効果やダイエット効果もあると言われています。軟白な若採り品は、エシャロットとして生食に人気です。1年で採らず、2~3年据え置き栽培すると、小粒の花ラッキョウになります。やせ地や砂地でも育てやすいのが特徴です。

図1 作型目安

	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月
ラッキョウ	▲	▲	★	★	★	★	★	■	■	■	■	
エシャロット 年内どり	▲	★	★	■	■	■						
エシャロット 春どり		▲	★	★	★	■	■	■				

▲ 植え付け ★ 追肥・中耕・除草・土寄せ ■ 収穫



栽培のポイント

- 病気がない健全な大球を種球に使いましょう(小球種は2~3 $\frac{1}{2}$ 、大きめのラクダ種は4~6 $\frac{1}{2}$ の大きさが最適)。
- 連作しても問題ありません。
- 植え付けの仕方によって球の大きさが変わります。大球を採るには1カ所に1球を深めに植え、小球を沢山採るには1カ所に3球程度を浅めに植えます。
- 高温多湿の環境を嫌います。また、特に水やりをする必要はありません。

畑の準備： 植え付けの2週間前に苦土石灰100 $\frac{1}{2}$ /㎡を施し、深さ30 $\frac{1}{2}$ 位までよく耕します。

1週間前には、堆肥1 $\frac{1}{2}$ o/㎡と化成肥料(畑作名人N:P:K=13-13-13)60 $\frac{1}{2}$ /㎡を施し、よく耕します。

畝幅100 $\frac{1}{2}$ 、高さ5~10 $\frac{1}{2}$ 程に畝を立てます。マルチを敷くと除草作業が楽になります。

ラッキョウの葉は細いため、株の間にも草が生えて除草に手間がかかるので、マルチングをすることにより、除草の労力を少なくできます。

植え付け： 条間20 $\frac{1}{2}$ 、株間10 $\frac{1}{2}$ 、深さ3~5 $\frac{1}{2}$ に、ばらした種球を1~3球ずつ指で植え付けます。

追肥・土寄せ： 芽が出た頃に、化成肥料(N:P:K=8-8-8)を40~50 $\frac{1}{2}$ /㎡程度施します。株の周りを軽くかき混ぜ、中耕・土寄せします。マルチを敷いた場合は、中耕・土寄せの必要はありません。

生長し始める2月頃にも、化成肥料(N:P:K=8-8-8)を40~50 $\frac{1}{2}$ /㎡程度施し、中耕・土寄せをします。土寄せが足りないと、^{りん けい}鱗茎が地表に露出し緑色になります。緑の部分は、漬物にしたときに黒っぽくなって、きれいに仕上がらない場合があります。

病虫害防除： ネギハモグリバエが発生することがありますが、防虫ネットのトンネル掛けで防ぐことができます。早期防除を心掛けましょう。

収穫： 5月下旬から6月になって球が肥大し、葉がほとんど枯れた頃が収穫適期です。晴天が続いた時にクワなどで球を傷つけないように掘り起こし、掘り上げたら葉と根を切ります。

そのまま栽培し続けると分球し、翌年に小球をたくさん収穫できます。

実は本来のエシャロットは別物!?

本来のエシャロットは、フランス料理などに使われる、ニンニクのような風味をしたタマネギの仲間です。

一方、日本では、土寄せを多めにして葉鞘を軟白させた「根ラッキョウ」のことをエシャロットと呼んでおり、本来のエシャロットとは別物なのです(混同しないように、この根ラッキョウをエシャレットと呼ぶ場合もあります)。

エシャロット専用で販売されているラッキョウ種球もあります。軟白にするには、収穫の1~2カ月前に十分に土寄せをし、11月~4月の葉が軟らかい時に収穫しましょう。

家庭菜園に関する相談は、営農経済センターのTAC(タック)までご連絡ください。